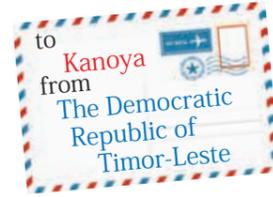




しもみちまなと 下道 真人 隊員 (30歳)

(派遣先：東ティモール民主共和国)

大学卒業後、運動機能の改善・維持を手助けする理学療法士として勤務。
1月から青年海外協力隊員として、東ティモール民主共和国で活動開始。理学療法士としての経験を生かし、リハビリテーションや運動機能回復などの技術普及に尽力。平成31年1月まで活動予定。



もりしげ ようじ 盛重 洋志 隊員 (40歳)

(派遣先：ドミニカ共和国)

高等専門学校卒業後、関東実業団バスケットボール1部リーグで2年間プレー後、県教職員として勤務。平成28年7月から青年海外協力隊員として、ドミニカ共和国で活動開始。バスケットボールの経験を生かし、スポーツ普及や、スポーツを通じた日本独自の「しつけ」の普及に邁進。平成30年3月まで活動予定。



医療関係の施設で、患者へのリハビリテーション(以下リハビリ)と、一緒に活動するスタッフへ、リハビリの知識と技術を教える講習会を行っています。患者の年齢はばらばらですが、0歳から19歳までの子どもが多いです。
施設外では、CBR(地域にあるリハビリ施設)のスタッフとともに地域や学校へ赴き、「障がいとは何なのか」という講座を実施しています。
その中で、私は病気やリハビリの重要性を説明しています。

応募のきっかけは
大学の頃、青年海外協力隊OBの先生の講義を聞いた時、「かっこいい、楽しそう」と思いました。その後フィリピンの児童養護施設に滞在中、人がとても優しく接してくれた一方で、収入が少なく子どもが学校に行けず、働かなければならない現状を目の当たりにしました。帰国後「かっこいい、楽しそう」が「何かできることはないのか」に変わったことが応募したきっかけです。
主な活動内容を教えてください
OBの先生の講義を聞いた時、「かっこいい、楽しそう」と思いました。その後フィリピンの児童養護施設に滞在中、人がとても優しく接してくれた一方で、収入が少なく子どもが学校に行けず、働かなければならない現状を目の当たりにしました。帰国後「かっこいい、楽しそう」が「何かできることはないのか」に変わったことが応募したきっかけです。

活動で感動した出来事がありますか
最初は、患者の症状など、必要なことを言葉でうまく伝えられず、同僚や患者に申し訳なく思い、同時に悔しい思いもたくさんありました。
そんな中、別れ際に「アミコテンテイ(私たちは幸せだ!)」とテトゥン語で言われ、患者や家族が泣いて喜んでくれたことがありました。
リハビリを通して、言葉で伝え



▲下道さんが教えるリハビリ技術が現地の理学療法士が実践

現在、日本には10万人以上の理学療法士が働いていますが、東ティモール国内には10人もいないことから、リハビリ等の技術が普及していません。
少しでも多くの人にリハビリを紹介することで、普及が進むとともに理学療法士を目指す人が増えてくれたらと願いながら活動しています。

INFORMATION

東ティモール民主共和国
◎国旗




◎面積=約14,900km²(日本の約0.04倍)
◎人口=約118万人(日本の約0.01倍)
◎首都=ディリ
◎民族=メラネシア系、マレー系、中華系、ポルトガル系等
◎言語=テトゥン語、ポルトガル語、インドネシア語、英語等
○鹿屋市からディリまでの直線距離=約4,500km
○主な産業=米、トウモロコシ、ココナッツ、コーヒー
○その他=東南アジア、インドネシアの近くに位置し、平成14年5月に独立。ポルトガル語を公用語とする国で構成される「ポルトガル語諸国共同体」に加盟
※地図、国旗、◎の項目については、外務省ホームページから引用

若い人に向けてメッセージをお願いします
海外の人や文化に触れることで新しい発見がたくさんできます。日本の「当たり前」が海外で



▲「リハビリが東ティモールに広がれば」と話す下道さん(右から2人目)

られない想いを伝えられたと思えた瞬間、ここでの理学療法士としてのやりがいを感じました。
はそうではなかったり、また逆もあります。将来どんな大人になりたいか、「自分は海外の生活の方が合っているかも」など、意外な発見もあるかもしれません。ぜひ多くの文化に触れて、なりたい自分を探してみてください。



▲子どもの症状や必要なリハビリ内容を説明

主な活動内容を教えてください
私は、教育省管轄の青少年体育能力育成センターに所属し、クラブに通う子どもたちへのバスケットボール指導や、日本の小・中学校に当たる学校で、体育の先生の補助をしています。
最近では、バスケットボールの練習内容そのものの情報は、インターネットなどで時間や場所に関係なく入手できるので、ほとんど教えることはありません。しかし、日本の学校体育のように、体操やストレッチなど、運動前に体をほぐす習慣が無く、運動が苦手だったり、体の柔軟性に乏しかったりする子どもたち

が、日本より多いと感じています。そのため、活動では、そのような不足していると感じる部分を補う内容を取り入れています。
本務である、バスケットボールを中心としたスポーツ教育以外に、日本の独特な教育である掃除や給食の時間などについて紹介しています。幼児期に身につけたほうが良い「しつけ」の必要性を説明し、今後のドミニカ共和国を担っていく子どもたちのしつけ教育のきっかけになれるよう取り組んでいます。
「郷に入っては郷に従え」ということわざはしっかりと心に留めて来たつもりでしたが、文化の違いや習慣の違いに戸惑い、ストレスを感じることも多々あります。
例えば、公共施設内での、日本で言う「マナー」はここにはありません。また、時間の約束はあつてないようなものです。



▲体育の授業での「整列」。日本ではよく見かける光景だが、ドミニカではとても珍しい

若い人に向けてメッセージをお願いします
国際交流は、視野を広げるだけでなく客観的に日本を、そして日本人を見るときにも良い機会です。
「教育とは何なのか」、「豊かな環境とは幸せなのか」、「色々な価値観があつていいのはいか」など、それぞれ受け止め方は違っていても、何かしら考えさせられるすばらしい体験になると思います。

応募のきっかけは
「苦難や未知の世界、新しい世界に飛び込む事が好きだから」です。新しい自分の発見、そして自分らしさを発揮する場面もあり、またそうでない状況で自分の足りないところに直面した時、考え、悩み苦しみ、たくさんのお会いもあり、そして周りに助けられ、結局何とかなるといふそんなプロセスが私の生き甲斐でもあり人生なのかもしれないです。
主な活動内容を教えてください
私は、教育省管轄の青少年体育能力育成センターに所属し、クラブに通う子どもたちへのバスケットボール指導や、日本の小・中学校に当たる学校で、体育の先生の補助をしています。
最近では、バスケットボールの練習内容そのものの情報は、インターネットなどで時間や場所に関係なく入手できるので、ほとんど教えることはありません。しかし、日本の学校体育のように、体操やストレッチなど、運動前に体をほぐす習慣が無く、運動が苦手だったり、体の柔軟性に乏しかったりする子どもたち

が、日本より多いと感じています。そのため、活動では、そのような不足していると感じる部分を補う内容を取り入れています。
本務である、バスケットボールを中心としたスポーツ教育以外に、日本の独特な教育である掃除や給食の時間などについて紹介しています。幼児期に身につけたほうが良い「しつけ」の必要性を説明し、今後のドミニカ共和国を担っていく子どもたちのしつけ教育のきっかけになれるよう取り組んでいます。
「郷に入っては郷に従え」ということわざはしっかりと心に留めて来たつもりでしたが、文化の違いや習慣の違いに戸惑い、ストレスを感じることも多々あります。
例えば、公共施設内での、日本で言う「マナー」はここにはありません。また、時間の約束はあつてないようなものです。



▲競技だけではなく、体の動かし方を基本から教える

INFORMATION

ドミニカ共和国
◎国旗




◎面積=約48,442km²(日本の約0.13倍)
◎人口=約1,053万人(日本の約0.08倍)
◎首都=サントドミンゴ
◎民族=混血73%、ヨーロッパ系16%、アフリカ系11%
◎言語=スペイン語
○鹿屋市からサントドミンゴまでの直線距離=約14,100km
○主な産業=観光業、農業、繊維加工
○その他=北アメリカ大陸と南アメリカ大陸の間のカリブ海に位置する国。観光地として世界的に著名で、「カリブ海に浮かぶ楽園の島」と言われる
※地図、国旗、◎の項目については、外務省ホームページから引用